

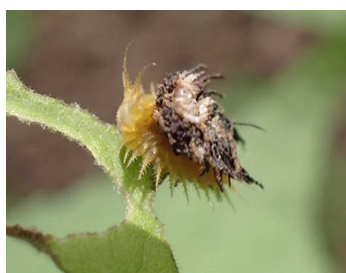
調 節

1. イチモンジカメノコハムシの食事

この時期、打吹公園や遊歩道を歩くと写真のように虫食い状態の葉が目につきます。葉裏を見ると異様な形の幼虫がいたり、透き通った貝殻をつけたような虫がピタッとついています。葉はムラサキシキブ、変な虫はイチモンジカメノコハムシです。



イチモンジカメノコハムシ



脱皮殻を背負うイチモンジカメノコハムシの幼虫

カメノコハムシ類の成虫は、カメの甲羅状に前胸と前翅が半透明な薄い板状に広がり、本体を隠してしまっています。テントウムシのような脚がわずかに見えます。前翅の胴体部分は不透明で、この部分の模様が種によって違います。

ハムシは「葉虫」の意味で、種によって成虫、幼虫共に特定の植物の葉を食べます葉脈を避け、柔らかい部分をつまみ食いしたような痕はハムシ特有のものです。若い葉を好みますから、植物の生育の障害にならない範囲で食べているものと思われます。喰い尽くさず、共存する生き方をとっているのです。

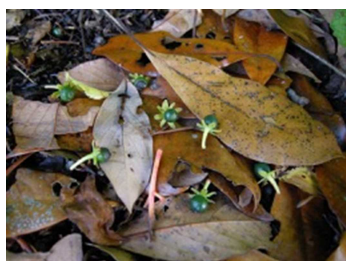
ハムシの幼虫は糞を体につけたりして隠遁(いんとん)の術を使いますが、イチモンジカメノコハムシの幼虫は、腹端につけた脱皮殻を背負って隠れています。突起のある体の脱皮殻ですので異様なものになるのです。腹端を横から背側に反らせているのがわかります。



ムラサキシキブの食痕

2. タブノキの落果

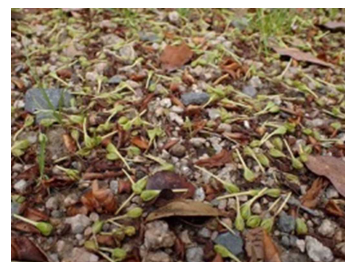
タブノキは5月に開花が始まります。大木では樹冠が一面に花に覆われますが、新葉の黄緑色に溶け込んで目立ちません。しかし、樹下に入ると花後すぐに落下したものが一面にあり、開花したことがわかります。円錐状花序で次々開花して行くため、6月になると花殻と若い緑の果実が混じって落ちています。



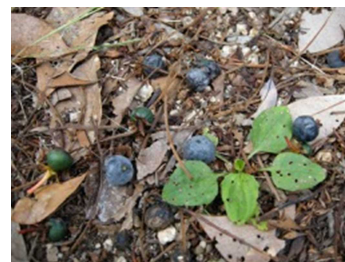
落としたタブノキの幼果

アボガドの仲間ですので、脂肪の多い果肉は鳥が好んで食べ、中の球形の大きな種子を糞とともにあちこちに落としてくれます。しかし、そのために、自分の成長に回すべき物質を鳥に提供する事になります。大量の花をつけますので、全ての果実を熟させることなく、途中で適当に落果させることで無駄を省いているものと思われます。

果実は熟したのから落下させますので、いろいろな段階の果実を地面に見ることができます。8月になると黒く熟したものばかりです。アボガドのように美味しくありませんが、ねっとりしています。食べてみてください。



タブノキの花殻



熟して落ちた果実